

2020年度 事業報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

特定非営利活動法人
アフリカ児童教育基金の会ACEF

はじめに

新型コロナの影響

2020年2月より、日本でも猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、3月半ばにケニアで初の新型コロナウイルス陽性者が確認され、ほどなく国内数か所で感染が拡大し、3月末に貨物便を除くすべての国際線も一時運休。陸続きの隣国との国境も封鎖。

一時は毎日3千人以上の陽性者の報告があがっており、首都ナイロビを含む主要都市をロックダウンし、その都市への交通を遮断。夜間外出禁止令、行商の禁止、教育機関の一斉休校、リモートワーク8割推奨し、囲い込みを実施した結果、陽性者数が1日に1千人程度になったところで、8月より一部の国に対し条件付き(72時間以内のPCR検査など)で国際線の運航が再開になり、ケニアへの入国が可能となった。

しかし、事態収束までには時間がかかるとみて、安全対策のため、2020年度はボランティア/インターンの受入を一時中止し、現地にいた短期スタッフもいったん3月末に帰国させることにした。ただし、長期滞在ビザを取得している所長夫妻とスタッフのみがケニアに残り、活動を継続した。

当会のほとんどの事業の責任者はケニア人であり、日本人は統括業務を担っているため、少数の日本人スタッフのみでも現地活動の運営が可能であった。

2021年3月末現在、ケニア国内のロックダウンは解除されてはいるが、公共施設でのマスクの着用や手洗い、夜間外出禁止令(21時～翌4時まで)、多人数での集会の禁止は継続しており、2021年初めより変異種などの感染も広がってきていることから、予断を許さない状況である。

ケニア国内における医療従事者に対する新型コロナのワクチン接種は2020年年末から実施され、当会病院スタッフも順次接種を実施し、1度目の接種は完了し、2度目の接種を実施中。

定款1の医療援助事業

エンブ(タウン分院を含む)、エナ、マキマの3つの病院を運営。

新型コロナのワクチンも3病院の医療スタッフは接種済み。

エンブ病院(タウン分院を含む)だけでも、年間の来院数は約70,000人だが、2020年3月よりケニアでも感染が広がった新型コロナの対応のため、急きょ隔離病棟を設置し、陽性者の対応をした。今やエンブ以外の近隣地域からも信頼がおけ、設備の整った私立病院としての知名度が高い。

エナ病院は、エンブ病院傘下で順調に稼働。特にエイズケアセンターは、エイズ患者への定期健診、処方、USAIDからの支援を受け、患者のカウンセリングの他にエイズ予防啓蒙活動と、後出の患者宅の訪

問ケアを実施。その長年の功績が認められ、昨年に引き続き2020年もエンブ郡知事より、最優秀エイズケア機関として表彰された。

コロナ禍のため、近年好評だった医療系学生のボランティアは受け入れできなかった。

マキマ地区のマキマ分院は、設備も整っているため、コロナ対策をしながら、引き続き近隣住民への医療サービスの提供を継続した。

毎年恒例になっていた、エイズ疾患やガン検診のメディカルキャンプ(住民への無料診療)は、ケニア政府がロックダウンを発令し、多数の人が集まることができなくなったため、やむなく中止した。

緊急食糧支援

エイズ巡回患者宅とその近隣住民およびエイズ孤児院入所している子ども達の保護者宅へ、緊急の食糧支援を3回行った。

これはロックダウンで政府がリモートワークを推奨し、教育機関の7か月にもおよぶ一斉休校に伴い、給料の未払い、学校の閉鎖による解雇者が急激に出たこと、小さい商店や行商などの一時出店禁止、経済悪化のため日雇いの雇止めなどにより、日々の生活に困窮する世帯が増えたことに対して、緊急措置として対応した。

定款2の医療講習会開催事業

エナ病院エイズケアセンターでは、2019年度より医療法人社団元志会の支援を得て、来院の必要があるのに、経済的または身体的に困難で診察に来れない患者宅への訪問ケア(診察、投薬、カウンセリング、栄養指導など)を月10回程度、コロナ対策をしながら実施。

また、コロナによるロックダウンで学校が一斉休校したことにより、若年層が家庭で時間を持て余し、昼夜を問わず街を徘徊するように。その結果、携帯電話使用料などの小遣い稼ぎに売春をする若い女子が増え、望まない妊娠が急増し、中にはエイズに感染した者もあり、彼女らのケアにもカウンセラーは奔走した。

訪問ケアの際に行っていた住民へのエイズ予防講習会および無医村地区への巡回診療も集会、セミナーの禁止令があるため中止した。

定款3の職業技術訓練

通常は主に経済的や諸事情により義務教育(6歳から13歳までの8年制)を修了出来なかった青年及び子女を対象に、8つのコース(自動車整備、板金塗装、金属加工、家具木工、洋裁服飾、美容、コンピューター技術、自動車免許取得)に分けて、将来の雇用を促進する教育事業として当会が運営。ケニア政府公認校に指定されて10年。エンブ郡から教員派遣などを受けて自立運営している。

職業訓練校は、2020年3月末にケニア国内全教育機関の学校閉鎖令を受け休校し、ケニア政府のガイドラインに沿ってコロナ対策(マスク、手洗い場の設置、教室内の人数制限など)をして2021年1月から再開。

毎年行っている他団体NPO法人が支援する事業とコラボし、学校の長期休暇を利用し、年2~3回、当職業訓練所で小学校教師や洋裁教師の再トレーニングプログラムも中止した。

定款4の教育支援

小学校運営

ケニアの義務教育を行う小学校(7歳から14歳までの8年制)は、年末に行われる全国統一高校入学試験(日本のセンター試験のような試験で、この成績により高校が振り分けられる)では、コロナ禍の不十分な勉強の時間に関わらず、今年もエンブ郡450校中、第1位を獲得。首位を9年連続で独占。受験者約100.万人中、500点満点中400点以上を獲得したのは1%未満だったが、当校からはその400点以上獲得した生徒も輩出し、自他ともに認める国内でも上位校となり、将来、ケニアを背負って立つ優秀な人材を育成している。生徒数 保育所、幼稚園約50人 小学校約500名

新型コロナウイルスの影響で、2020年3月末にケニア国内全教育機関の学校閉鎖令を受け、7月まで一斉休校。この間、ケニア全土で3分の1の私立学校が経営存続できず閉校に追い込まれた。

ケニアではあまり行われていないリモート授業を5月から導入。7月から新システムに則り、小学校初等部受験生の4年生と高等部8年生の対面授業のみ再開。他の学年は引き続きリモート授業。ただ、すべての家庭でネット環境が整っているわけではないので、格差が生まれてしまうことも否めなかった。

政府のガイドラインに沿ってコロナ対策して2021年1月より全学年が対面授業を再開。

エイズ孤児院運営

「エイズ感染孤児」を対象にした、子供たちの生活向上と教育支援事業を実施するための ACEF ジャンプ & スマイルセンターの運営も継続。近隣の2つの小学校に分かれて通学。

エナ・エイズケアセンターと連携して健康管理を行い、子供たちに教育の場を提供し、せっかく生まれた人生の生きる道を探り、絵画や音楽、ダンス、スポーツなど適性を生かした道とともに支援している。

今年度は7人の小学校卒業生を輩出。引き続き、高校教育の支援を行っている。小学生23名。高校生は普段、各校の寮で生活しており、休みの期間には孤児院へ帰省してくる。新型コロナウイルスで休校の間は、一旦保護者宅へ帰した。休校中の勉強のため参考書なども配布したが、現金収入のほとんどない保護者家庭では日々の食事もままならないので、急きょ食糧支援も行った。

また、エイズ孤児施設の経済的自立のため、有機農法による農園を整備し、家畜の世話をし、自給自足の生活を目指している。前出のクラウドファンディングにより、ダチョウ園を運営する計画が進行しており、併せて鶏や小動物も飼育し、地域の小学校に校外学習で訪問してもらえるような施設の開設を目指している。

日本 E リモデルの支援を受け、以前に掘削していた井戸にソーラー式井戸を設置。孤児院や隣接農地で使うほか、孤児院の子ども達が通う小学校や高校の近くに蛇口を取り付け、登校前の水くみで利用できるようにし、安心して安全な水の確保ができるようになり、学校側から大変感謝された。

定款5の有機薬剤及び有機肥料の製造と普及の推進

農業立国を目指すケニア国家の国策を支援するため、従来から有毒で高価な化学肥料や、化学農薬に依存してきた農業栽培方式から、安全で安価な有機微生物を活用した「有機肥料及び農作物の病害虫を抑制」ための、自然再生型の農業栽培の転換を目的として、貧しい農民への「有機肥料の知識と技術」を教育する「農民講習会」と「実習農場」において有機栽培の実習する教育を継続。

有機農業トレーニングセンターでは、セミナーはロックダウンのため、一時中止した。

定款6 環境保全に係る事業

環境保全活動

ACEF の関連施設のスタッフなどが参加し、また環境保全に興味があり意欲のある学生グループなどにも呼びかけ、毎年実施しているクリーンナップデイは、今年度はコロナ禍のため中止。

公共イベントなどで散らかるゴミを拾いながら、環境保全について話す機会を得て、少しずつ近隣住民にも認知されてきているので、来年度以降は再開できることを望む。

ゴミの分別回収では、生ゴミとプラスチックやカン・ビンなどの分別作業をするためのステーションを設置している地域環境団体 **Utamaduni** をサポート。ロバ車で回収したごみをステーションで分別する作業を地域の若年層の雇用支援として実施。分別したプラスチック、カン・ビンは業者に引き取ってもらった収益は、**Utamaduni** の就労支援や技術向上のための運営資金とする。

また、ケニア国内ではレジ袋の製造、使用、持ち込みを禁止する条例が施行されたことを受け、**Utamaduni** のケニア国内向けのエコバック普及活動もサポート。スーパーへの営業、セミナー、研修会などでアメニティグッズ、チャリティーグッズとして活用してもらえるように、政府機関や国際機関にアプローチ。同時に、職業訓練校洋裁コース卒業生が、日本国内向けのアフリカ布バックの普及もサポート。デザイン、縫製のアドバイス、販路調査、出店先営業、委託販売、購入者からのフィードバックなどをまとめて次の作品に活かせるようにサポートした。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	支出額
定款① 医療援助活動	1) 病院は自立運営しているの で、事業費支出はなし。	年中無休 24時間対応	・エンブ郡内	0円
	2) エイズ患者宅への訪問ケア	毎月8～9回	・エンブ郡近郊	1,083,708円
	3) 上記巡回患者宅やその近 隣住民およびエイズ孤児院 の子どもの保護者宅とその 近隣住民を対象にした緊 急食糧支援	6月～9月で実施	・エンブ郡近郊	2,164,934円
定款② 医療講習会開催事業	新型コロナの影響で、集会やセ ミナーが禁止になり、やむなく中 止。			0円
定款③ 各種の職業訓練学校の 運営事業	政府認定の職業訓練学校にな ったことにより、事業費支出なし			0円
定款④ 教育支援事業	1) 貧しい家庭の子供と孤児を 対象にした義務教育(7歳 から14歳までの8年制)の 小学校及び寄宿舎の運 営、エイズ孤児施設の運営	年間を通して	エンブ郡マキマ 村	3,455,457円
	2) 小学校職員給与支援 新型コロナの影響で、全教 育機関が閉鎖。その間収 入がなかったが職員の生活 を守るため、労組と合意し 給与支援を実施。	2020年4月～9 月	エンブ郡マジン ボ地区	4,350,800円
定款⑤ 有機薬剤及び有機肥 料の普及啓発事業	なし			0円
定款⑥ 環境保全に係る事業	なし			0円
業実施経費合計				11,054,899円

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	支出額
定款① 有機薬剤及び有機肥料の販売事業	この事業は実施しておりません。			0千円